

日本語を母語とするフランス語学習者の 発音特徴の一考察

2021年7月25日（日）

科学研究費B 2021年度第1回研究会

東京外国語大学博士後期課程 伊藤玲子

東京外国語大学 川口裕司

目次

1. 先行研究
 2. リサーチクエスション
 3. 方法
 4. 分析
 5. まとめ
 6. 今後の課題
- 引用文献

1. 先行研究

Detey et al. (2010), Racine et al. (2010), Racine et al. (2012),
川口 他 (2012)

日本語を母語とするフランス語学習者が苦手な発音

- 母音 [ɔ̃]/[ɑ̃]や[ɛ̃]/[ã]の対立
[u]/[y]や[u]/[ø][œ]の対立
- 子音 [b]/[v]の対立
[l]/[ʁ]の対立
母音[i]の前の[s]/[ʃ]の対立
母音[i]の前の[t]
子音連続の発音
- 綴り字 f の発音
h の扱い

2. リサーチクエスチョン

日本語を母語とするフランス語学習者の
発音について

- ①標準的フランス語とどの程度一致しているか？
- ②どのような音声バリエーションがみられるか？

3. 方法

コーパス

- 「A corpus-based multi-level analysis of spoken French produced by pre-advanced Japanese learners of French」

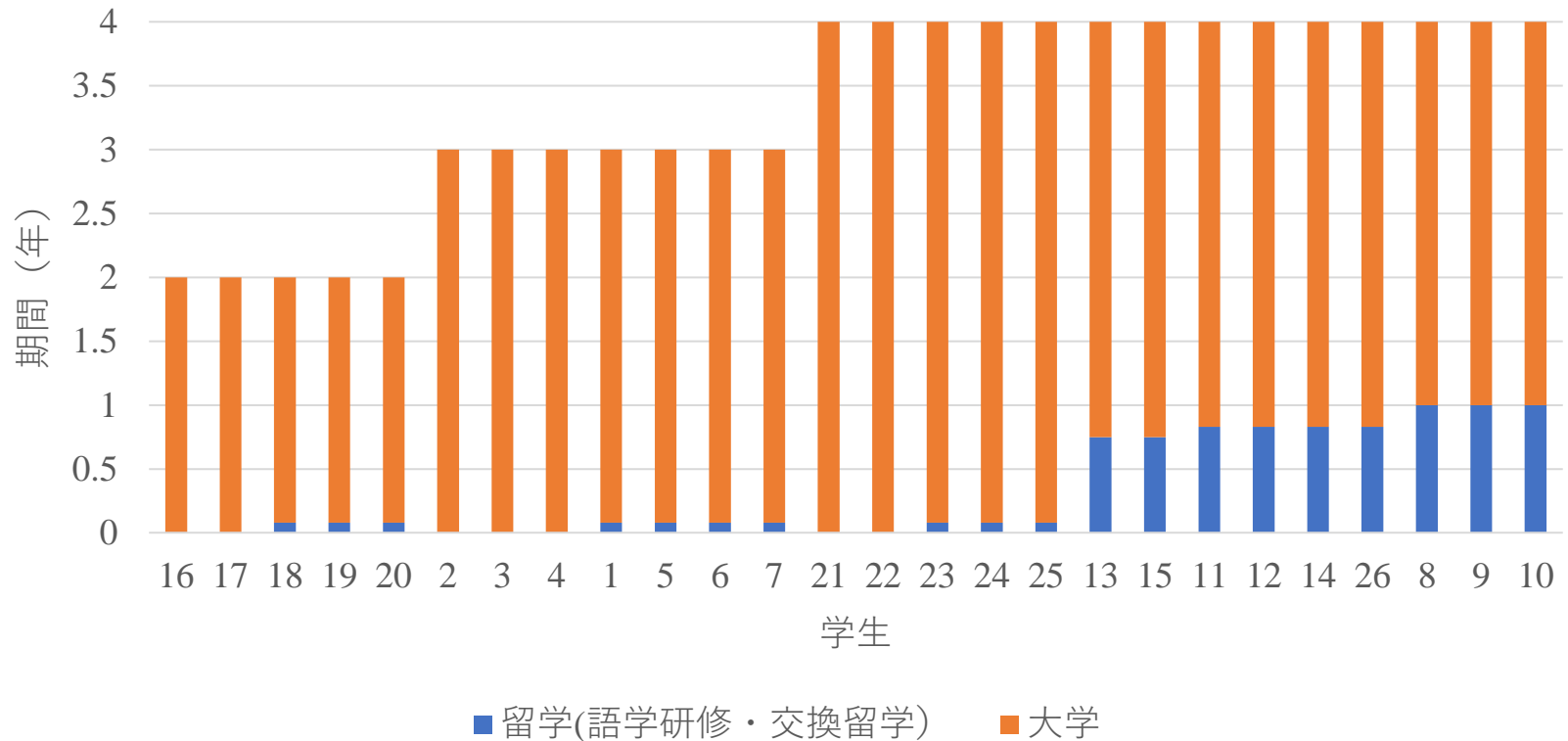
及び

「フランス語、ポルトガル語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析」

の枠組みで作成された
日本語を母語とする学習者による
フランス語音声データ

- 調査時期 2018年7月～2019年11月

コーパス インフォーマント情報



フランス語専攻の大学2 - 4年生 26人 (男性4人, 女性22人)
(留学: フランス、カナダ)

Martinet et Walter (1973)

標準的フランス語における
実際の口語の発音辞典

- インフォーマント

パリの住民17人の標準的フランス語母語話者

学習者の発音を対照する軸として参照

コーパス 使用タスク

PFCプロジェクトの調査語 94語

- ①リスト繰り返し タスク
- ②リスト読み上げ タスク

IPFCプロジェクトの調査語 61語

- ③学習者用リスト読み上げ タスク

以降、各タスクを
タスク①, タスク②, タスク③、と表す。

コーパス 使用タスク

Martinet et Walter (1973) の
掲載語

PFCプロジェクトの調査語 94語→ 85語

- ①リスト繰り返し タスク
- ②リスト読み上げ タスク

IPFCプロジェクトの調査語 61語→ 56語

- ③学習者用リスト読み上げ タスク

以降、各タスクを
タスク①, タスク②, タスク③、と表す。

分析対象

- 子音

- (1) [l]/[ɫ]の対立

- (2) 母音[i]の前の[s]/[ʃ]の対立

- 綴り字

- (3) h の扱い

- (4) 語末子音字 -r の扱い

- (5) 語末子音字 -t の扱い

- (6) 語末子音字 -s の扱い

手順

- 各学習者のタスク①, ②, ③を1人が聞き取り、迷う場合はもう1人が確認のために聞き取る。ソノグラムも参照。
- 分析対象に該当する語が4語未満のタスクは、扱わない。
例) 綴り字 h を持つ語 タスク①, ②に1語のみ →扱わない
- 学習者の発音をMartinet et Walter (1973) の発音と対照
一致：1、不一致：0
- 学習者の一致率を出す。
- 本研究では、一致率が60%以下を一致率が低いとみなす。
- 一致率が低い分析対象について、以下の分析を行う。
 - タスク①と②の比較
 - タスク③
- 不一致の発音を考察する。

4. 分析

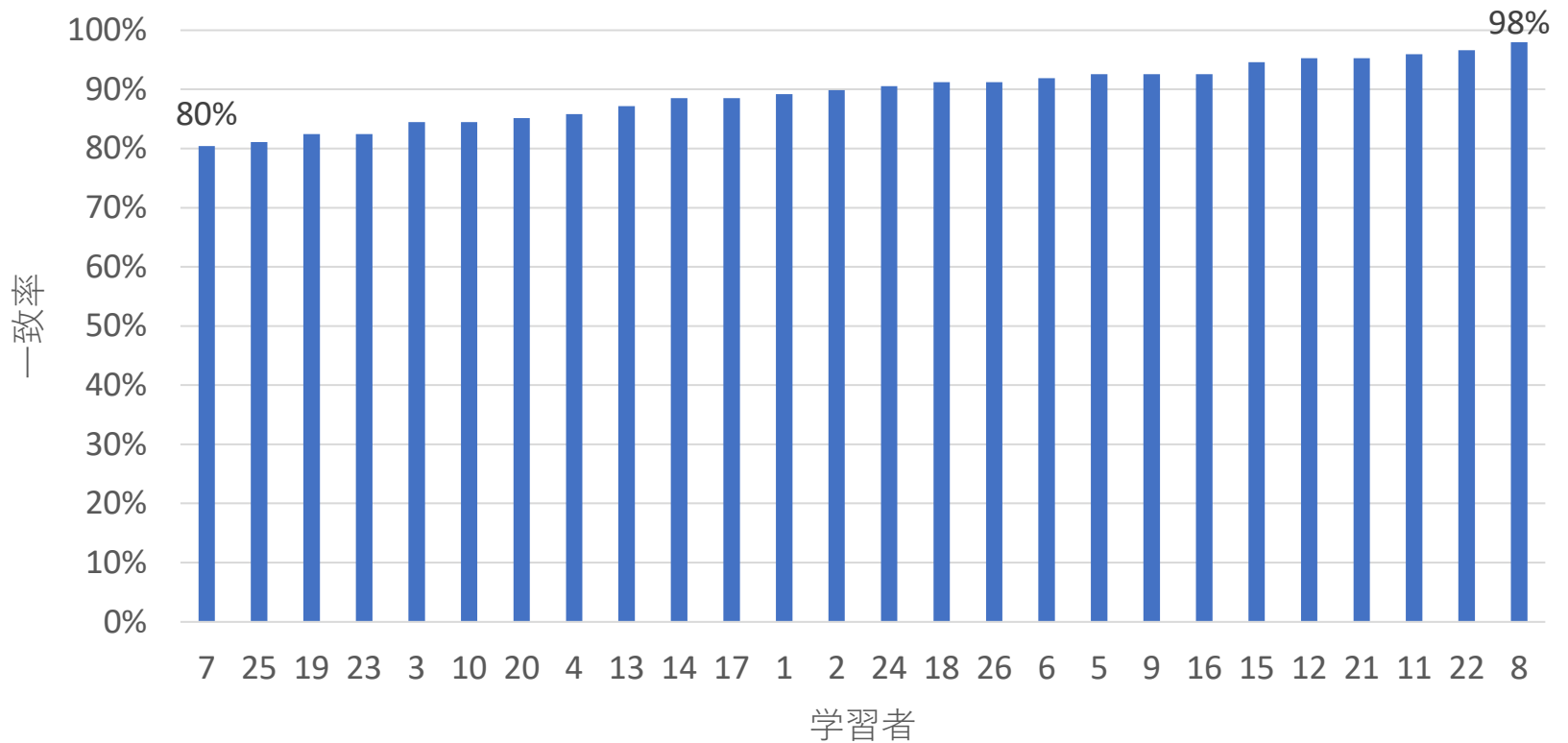
高い一致率

学習者の一致率 (%)

高い一致率

学習者	子音			綴り字									
	(1) [l]/[ɫ]			(2) [si]/[ji]	(3) h	(4) 語末子音字 -r		(5) 語末子音字 -t			(6) 語末子音字 -s		
	①25語	②25語	③20語	③ 4 語	③5語	①14語	②14語	①7語	②7語	③ 6 語	①5語	② 5 語	③ 9 語
1	96	96	100	75	100	100	43	100	71	100	100	80	100
2	96	100	100	50	100	86	86	100	57	83	100	100	78
3	92	92	100	25	60	100	71	100	71	33	100	100	78
4	92	88	100	75	100	93	79	100	57	67	100	100	67
5	96	100	100	75	100	100	64	100	71	100	100	100	100
6	100	96	100	75	80	100	86	100	71	83	100	80	89
7	92	92	90	75	60	100	64	86	43	17	100	80	78
8	100	100	100	100	100	100	100	100	100	83	100	100	100
9	96	92	100	100	100	100	79	100	71	100	100	80	100
10	88	92	100	50	100	100	43	100	57	67	100	100	89
11	96	100	100	75	100	100	100	100	86	83	100	100	100
12	96	100	100	100	100	100	86	100	71	100	100	100	100
13	96	100	100	100	100	79	43	100	71	67	100	100	89
14	80	92	100	100	100	93	79	100	71	100	100	80	89
15	96	100	100	75	100	100	93	100	86	100	100	80	89
16	92	96	100	75	100	93	79	100	86	100	100	100	100
17	84	96	90	50	100	93	79	100	86	100	100	80	100
18	88	100	100	50	100	100	79	100	71	83	100	100	100
19	88	96	100	25	100	100	43	100	71	50	100	80	67
20	88	92	100	75	100	100	43	100	71	33	100	100	100
21	96	92	100	100	100	100	100	86	86	100	100	100	100
22	100	100	100	100	100	100	100	100	71	83	100	100	100
23	76	96	100	50	100	100	29	100	71	83	100	100	78
24	84	96	100	100	80	100	100	100	43	100	100	100	78
25	92	96	95	75	80	79	29	100	57	50	100	100	89
26	92	100	100	75	100	100	64	100	57	100	100	100	100

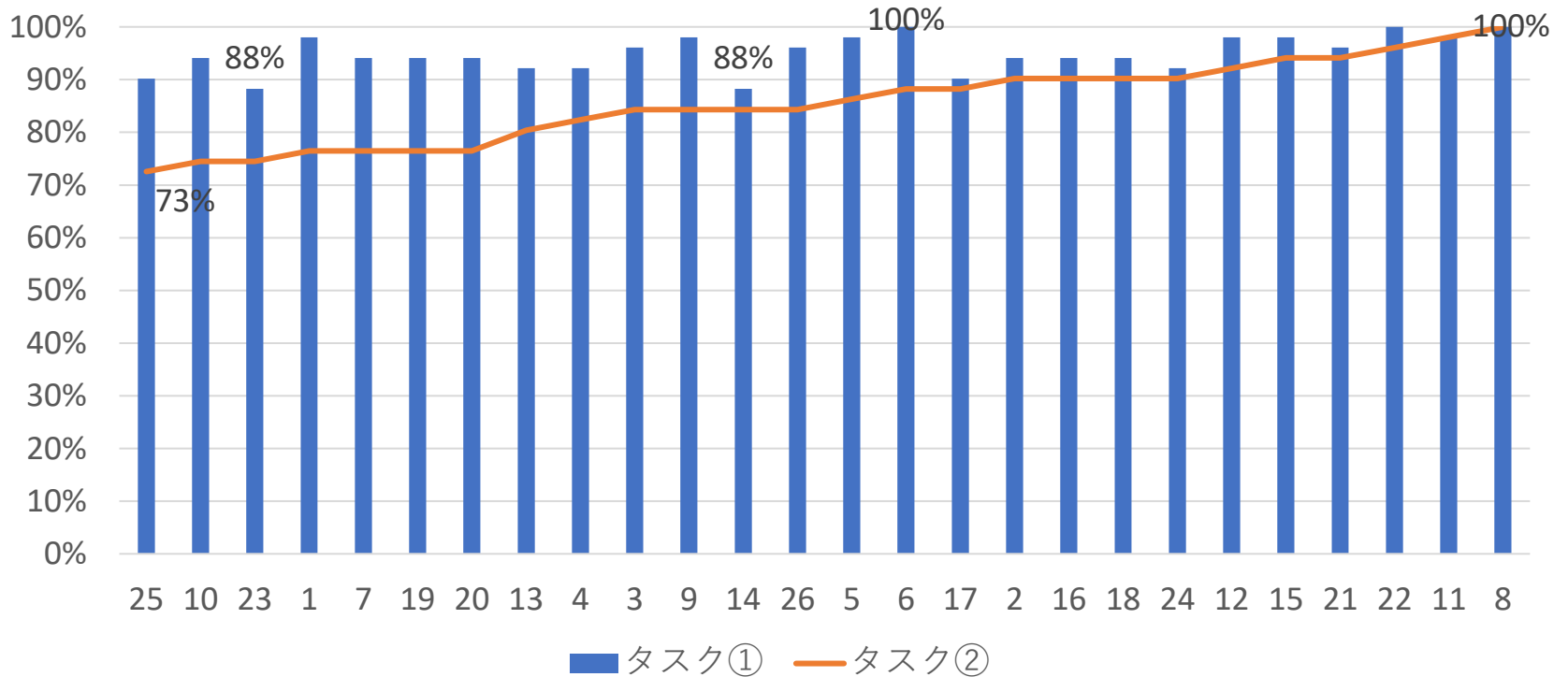
総合一一致率 タスク①, ②, ③



全体的に高い一致率

総合一致率 タスク①, ②

([l]/[ʁ]、語末子音字 -r、語末子音字 -t、語末子音字 -s)



タスク① 88-100%

タスク② 73-100%

一致率 「繰り返し」 ↓ 「読み上げ」

「繰り返し」と「読み上げ」

- ドゥテ 他 川口 他編訳 (2019)

話し手の注意度

単語読み上げタスク >

短いテキストの読み上げタスク >

調査者とのインタビュー >

自由会話

注意度はタスクによって異なる。

- 「繰り返し」 高い注意度が必要、多かれ少なかれ緊張。
- 「読み上げ」 緊張度は繰り返しより低い。



タスク①と② 同じ単語リスト

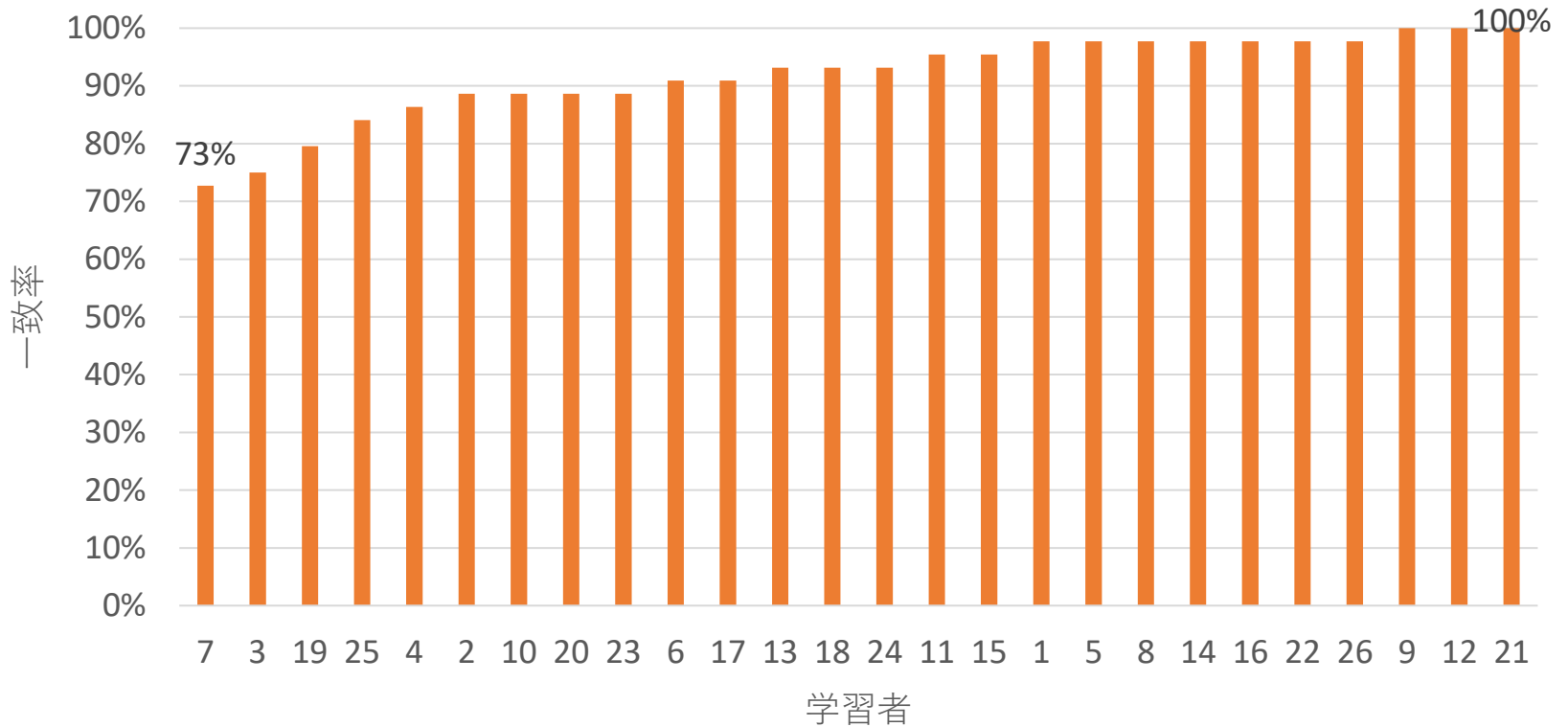
タスク① 高い注意度と緊張

それゆえ、一致率 タスク① > タスク②

総合一致率

タスク③

([l]/[ɾ], [si]/[ʃi], 綴り字 h, 語末子音字 -t、語末子音字 -s)



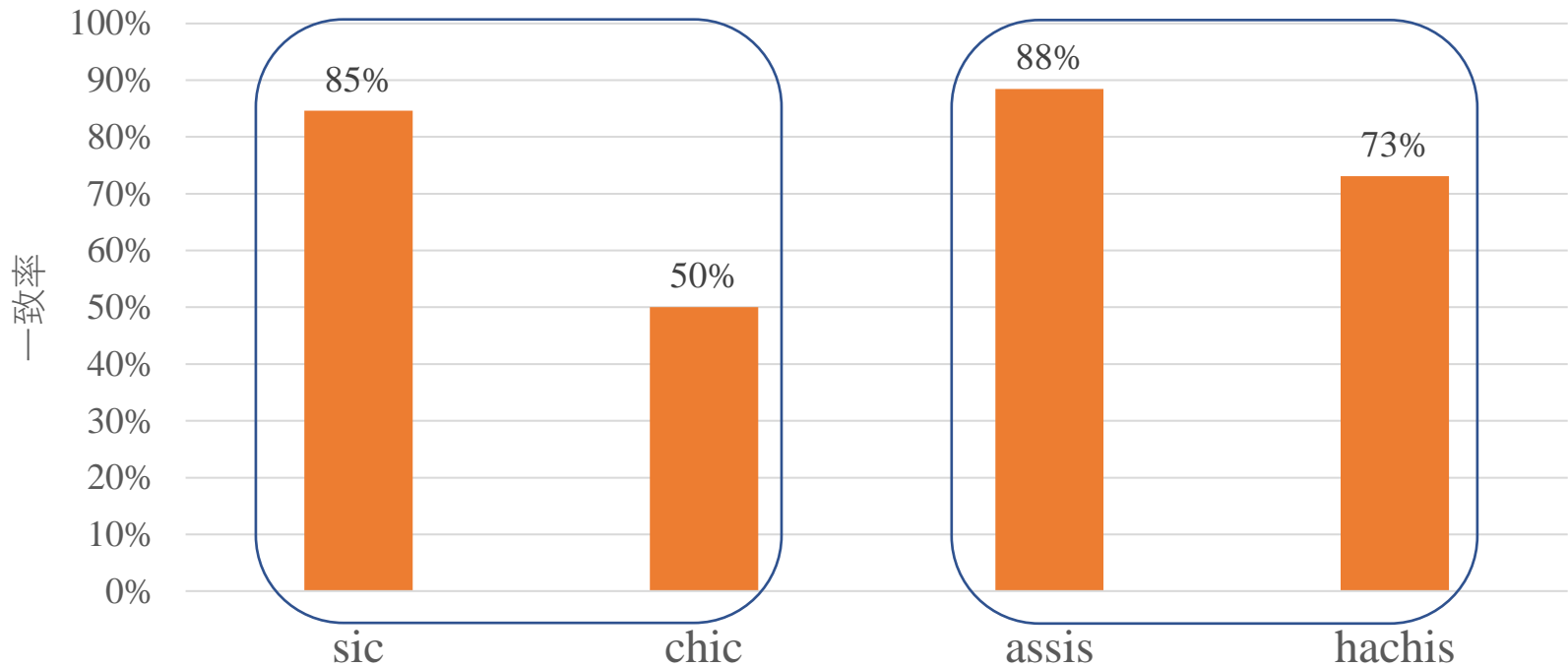
全体的に高い一致率。

次に、分析対象を個別に分析。

分析対象 (1) [l]/[ɾ] と (6) 語末子音字 -s → 一致率が高く
個別分析はしない。18

(2) 母音[i]の前の[s]/[ʃ]

タスク③ ミニマルペアの観察



一致率 **sic, assis** [si] > **chic, hachis** [ʃi]

(2)母音[i]の前の[s]/[ʃ]

タスク③ ミニマルペアの観察

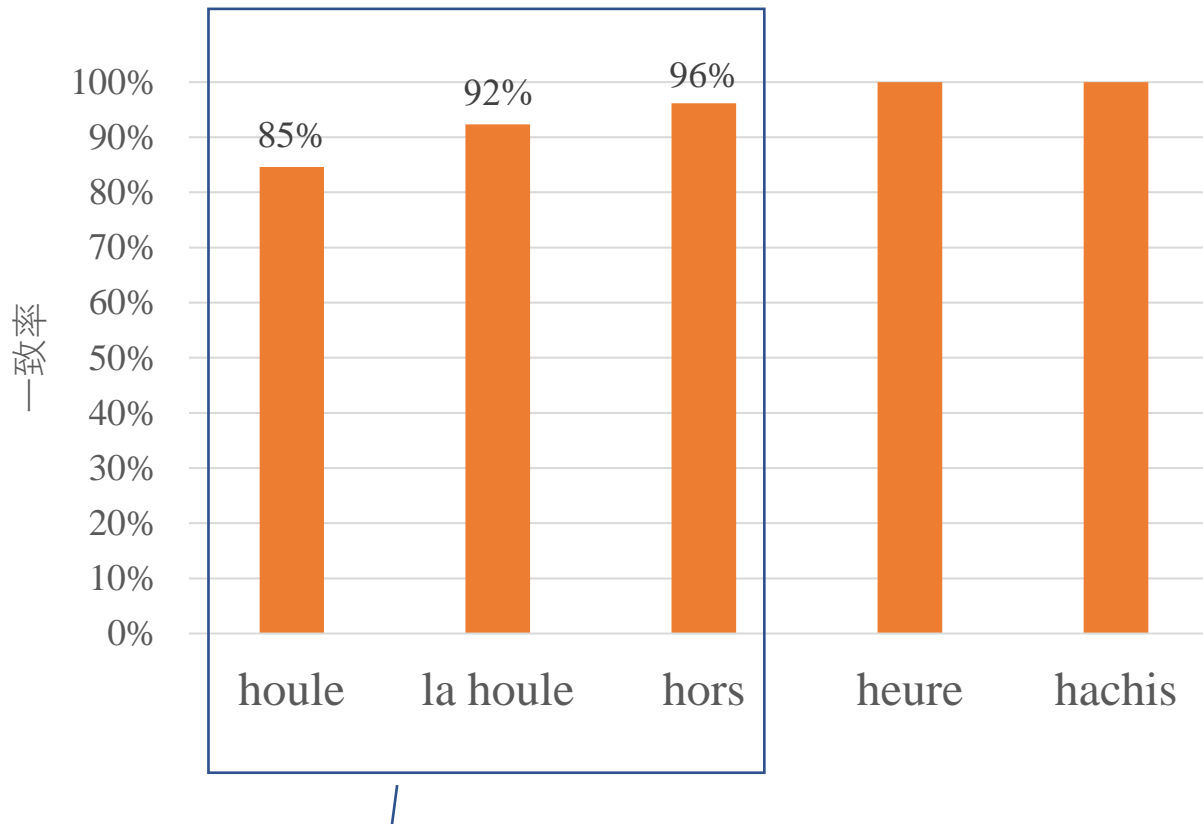
語頭音	sic/chic	assis/ hachis
[s-]/[ʃ-]	8, 9, 12, 13, 14, 21, 22, 24, 26	1, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 20, 21, 22, 24, 25
[s-]/[tʃ-]	3, 17, 19, 20	19, 23
[s-]/[s-]	2, 4, 5, 7, 10, 11, 16, 18, 23	2, 10, 18, 26
[ʃ-]/[ʃ-]	1, 6, 15, 25	3, 17

- 31% (8人) : [s-]/[ʃ-]の対立
- 4% (1人) : [s-]/[tʃ-]の対立→ [tʃi]は日本語「チ」に近い
- 11% (3人) : 対立を持っていない ([s-]のみ)
- 54% (14人) : 体系をもっていない



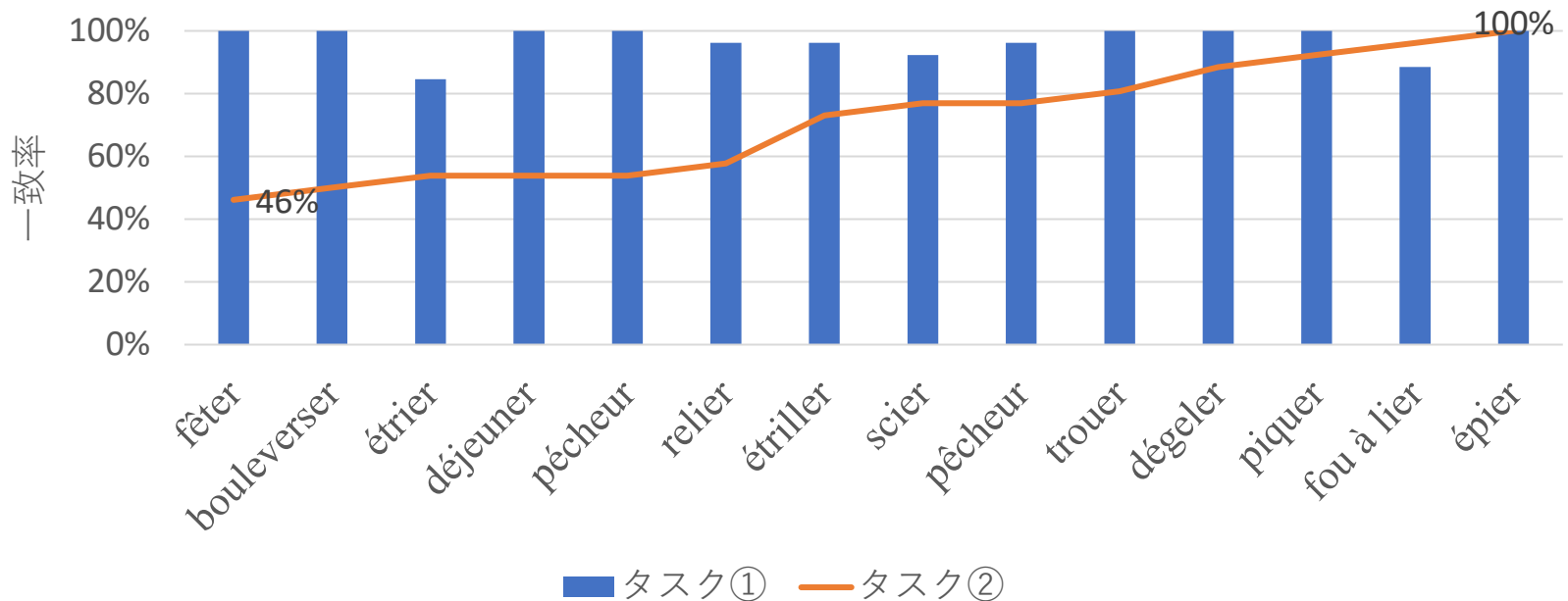
標準的フランス語と一致する[s-]/[ʃ-]の対立 学習者の31%

(3) 綴り字 h タスク③



綴り字 ou, o に先行する h [ɸ] →文字の影響
(IPFCの語彙リストで確認)

(4) 語末子音字 -r タスク①、タスク②

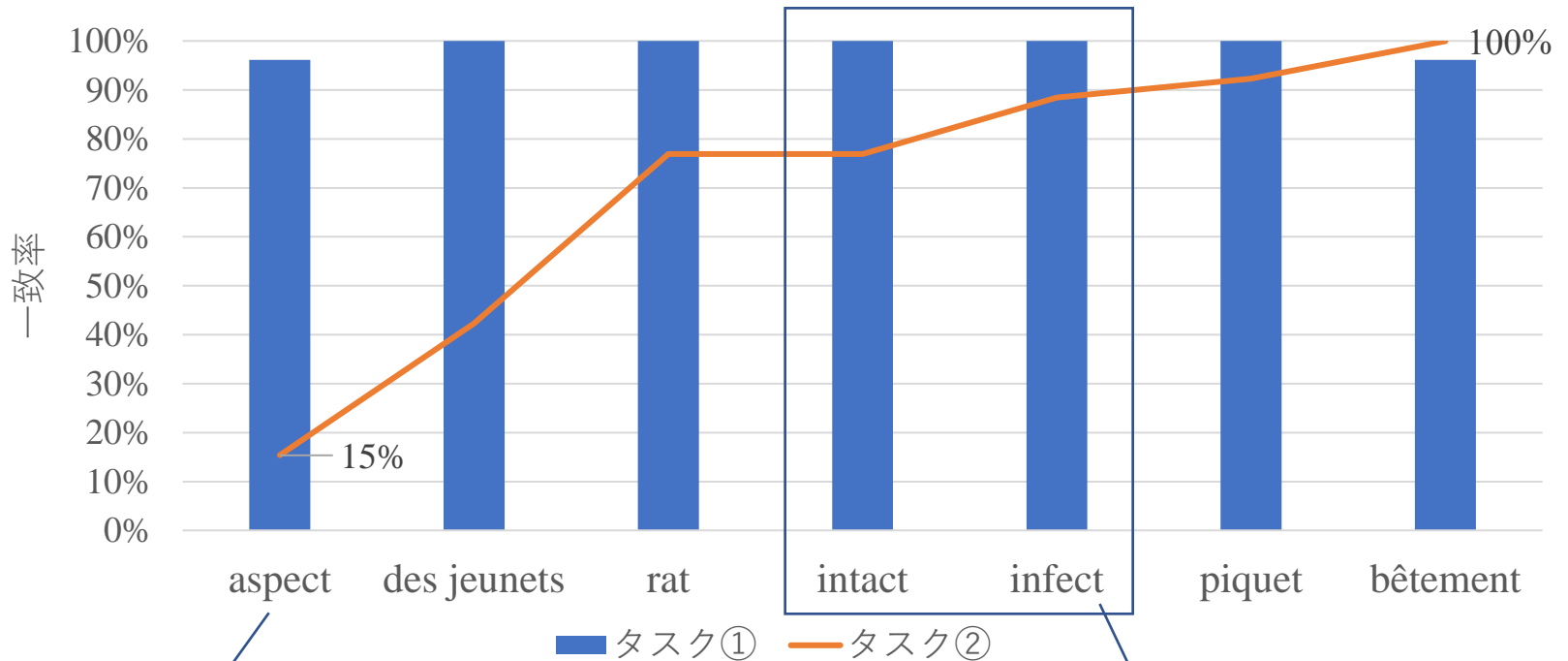


-er動詞 (-r 発音しない) or 実詞 (-r 発音しない/する)
判別する必要

- タスク① 「繰り返し」は判断する必要性が低い
- タスク② 他の分析対象の「読み上げ」より低め
→ 発音するか判断が容易でない

(5) 語末子音字 -t

タスク① タスク②



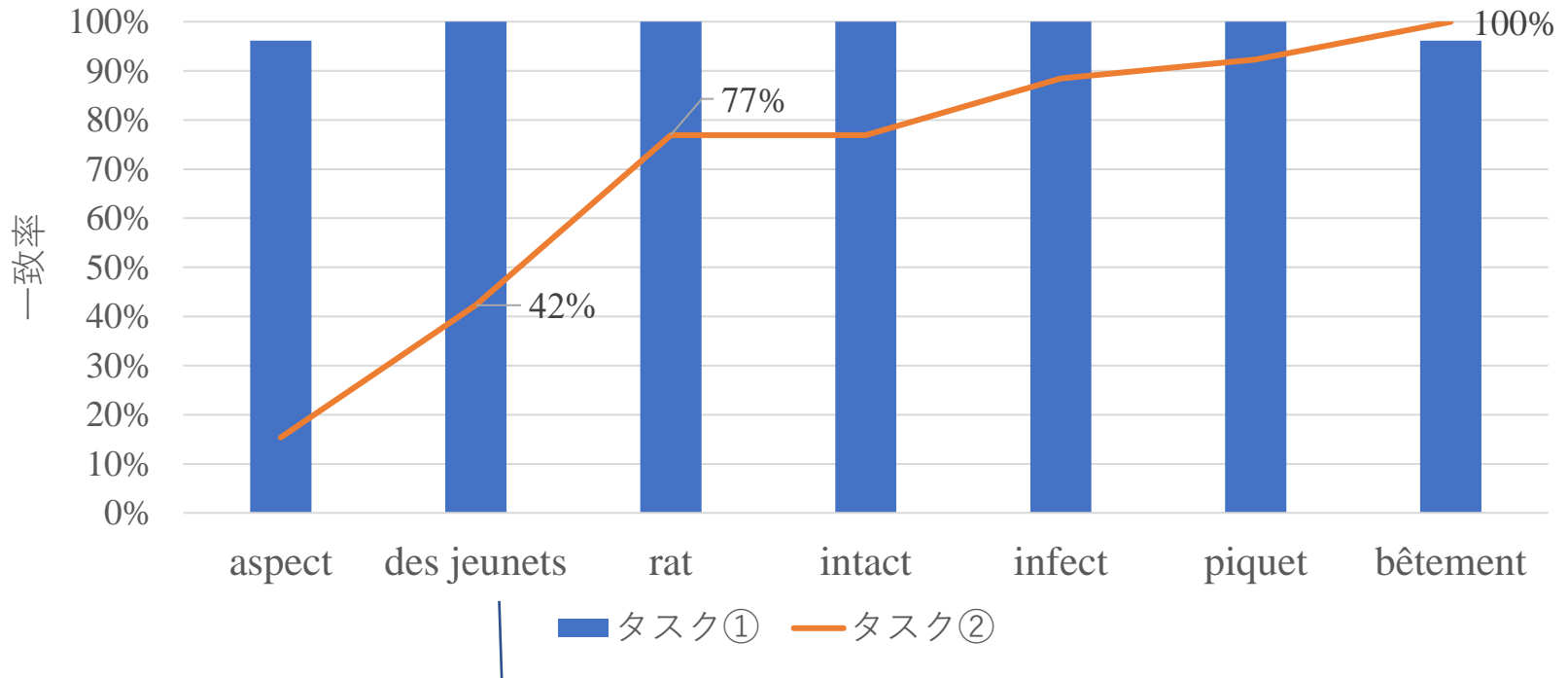
intact, infect と同様 [-kt]と発音

語末子音字を発音 [-kt]

-t を発音する例外からの影響

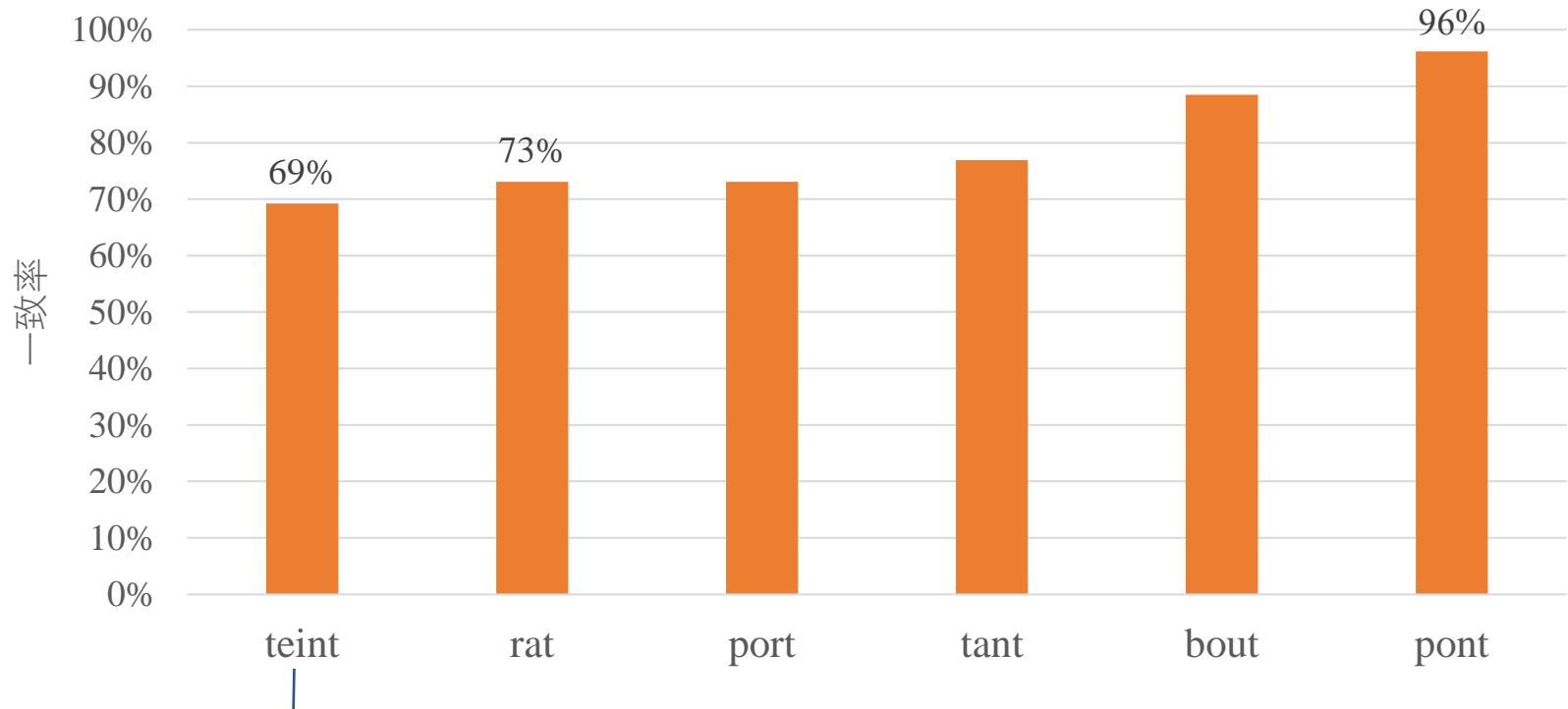
(5) 語末子音字 -t

タスク① タスク②



名詞に複数を表す s が付与
-ts [t]

(5) 語末子音字 -t タスク③



同じタスク 5つ前：teinte [-t]の影響も

タスク③ 全体的に一致率 低くない

5. まとめ

リサーチクエスチョン

日本語を母語とするフランス語学習者の
発音について

- ①標準的フランス語とどの程度一致しているか？
- ②どのような音声バリエーションがみられるか？

5. まとめ

リサーチクエスチョン①

- 全体的には標準的フランス語とかなり一致
- 一致率 「繰り返し」 > 「読み上げ」
注意度、緊張度 → 一致率を高める
- 「読み上げ」 一致率は語による
- [l]/[ʁ]の対立、語末子音字 -s の扱い
標準的フランス語と大きく変わらない
本研究の学習者らにとって、苦手ではない

5. まとめ

リサーチクエスチョン②

- 母音[i]の前の[s]/[ʃ]の対立
 - 31% : [s-]/[ʃ-]の対立
(標準的フランス語と一致)
学習者にとって苦手
- 綴り字 h ou, o に先行 [ϕ]になる場合が確認
- 語末子音字 -r 無声口蓋垂摩擦音[χ]
発音する語か/しない語か判断必要
「読み上げ」一致率低め
- 語末子音字 -t 発音する例外の影響
複数を表すのsの付与 -ts [t] (過半数)

6. 今後の課題

- コーパスを拡大
さまざまな学習者の音声バリエーション
より詳細な分析

引用文献

- 川口裕司・松澤水戸・杉山香織・近藤野里・ドゥテ・シルヴァン (2012) 「現代フランス語の中間音韻論」, 『コーパスに基づく言語学教育研究報告』 No.9, 35-69. 東京: 外国語大学大学院地域文化研究科グローバルCOEプログラム
- ヴェシエール・ジャクリヌ 中田俊介・川口裕司・神山剛樹訳 (2016) 『音声の科学—音声学入門』 白水社
- (VAISSIÈRE J. (2006). *La phonétique*, Paris, PUF.)
- DETEY, Sylvain, Jacques DURAND, Bernard LAKS & Chantal LYCHE編著、川口裕司・矢頭典枝・秋廣尚恵・杉山香織日本語版編訳 (2019) 『フランコフォンの世界: コーパスが明かすフランス語の多様性』 東京: 三省堂. (DETEY, Sylvain, Jacques DURAND, Bernard LAKS & Chantal LYCHE (2010). *Les variétés du français parlé dans l'espace francophone Ressources pour l'enseignement*, Paris : Ophrys.)
- DETEY, Sylvain. et al. (2010) Evaluation des voyelles nasales en français L2 en production : de la nécessité d'un corpus multitâches, *Congrès Mondial de Linguistique Française – CMLF 2010*, 1289-1301, Paris : Institut de Linguistique Française.
- RACINE, Isabelle. et al. (2010) The production of French nasal vowels by advanced Japanese and Spanish learners of French: a corpus-based evaluation study, *Conference: New Sounds 2010 - Sixth International Symposium on the Acquisition of Second Language Speech at: Adam Mickiewicz University, Poznan (Poland)*.
- RACINE, Isabelle. et al. (2012) Les voyelles /y-u/ dans IPFC : évaluation perceptive de productions natives, hispanophones et japonophones, *JEP-TQLN-RECITQL 2012*.
- MARTINET, André et Henriette Walter (1973) *Dictionnaire de la prononciation française dans son usage réel*, Paris : France Expansions.
- Sylvain Detey [ほか] 編著 ; 川口裕司 [ほか] 日本語版編訳

謝辞

本研究は、次の研究の助成を受けた。

科研費15H03227 基盤研究 (B) 「A corpus-based multi-level analysis of spoken French produced by pre-advanced Japanese learners of French」 研究代表者 Detey Sylvain

科研費16H03442 基盤研究 (B) 「フランス語、ポルトガル語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析」 研究代表者 川口裕司

科研費20H01279 基盤研究 (B) 「言語変異に基づくフランス語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析」 研究代表者 川口裕司



ご清聴ありがとうございました。